

(明科町の埋蔵文化財第10集)

塩田若宮遺跡

—明科町立明北小学校体育館建て替え工事に伴う緊急発掘調査報告—

1 9 9 7

明科町教育委員会

(明科町の埋蔵文化財第10集)

塩田若宮遺跡

—明科町立明北小学校体育館建て替え工事に伴う緊急発掘調査報告—

1 9 9 7

明科町教育委員会

序

塩田・若宮遺跡は、旧東川手村当時から小中学校などの敷地となっていたことなどから、その工事の折などに縄文土器などが採集され遺跡であることが知られていましたが、本格的な調査が行われることがなく、遺跡の規模や様子が不明なままでありました。

平成8年度、老朽化した明北小学校の建替えを行うこととなり、初めて本格的な調査が行われました。平成8年6月17日より7月5日まで600m²の発掘調査を実施しました。

調査の結果、遺構としては縄文時代中期から後期の竪穴住居址2軒、敷石住居址1軒、古墳時代の竪穴住居址3件が検出されましたが、遺物は後世の攪乱が著しいこともありこの時代としては少なく、僅かな量の土器や石器類が出土しただけでした。

最後に、発掘調査にあたりご協力をいただいた体育館施工業者である長野建設(株)、(株)藤原組に、こころから御礼を申し上げるとともに、時間の制約の中、調査にあられた調査員の皆様をはじめご協力いただいた関係各位に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

平成10年3月

明科町教育委員会

教育長 熊井 秀夫

例 言

1. 本書は、明北小学校体育館建替えに伴い、明科町教育委員会が実施した明科町大字東川手潮所在の塩田・若宮遺跡の発掘調査報告書である。
2. 現場での発掘調査は平成8年6月から7月にかけて行い、経費については町が負担し、国庫及び県費補助金を受けた。
2. 調査は明科町教育委員会が主体となり調査団を組織し調査を実施した。
3. 本書作成における作業分担は次のとおりである。
 - ・遺構 測 量 大澤 哲、唐沢政子、藤原誠子、細尾みよ子、矢花広子
ト レ ース 山本紀之
写 真 大澤
 - ・遺物 洗浄、注記、復元
唐沢、藤原、細尾、矢花
実 測 大澤、山本、唐沢、藤原、細尾、矢花
写 真 大澤、山本
 - ・編集 大澤、山本
4. 本書の執筆は山本が主として行い、大澤が補筆した。
5. 本調査の出土品、諸記録は明科町教育委員会が一括保管している。
6. 発掘調査・報告書作成に当たり次の諸氏・諸機関にご指導・ご援助をいただいた。記して謝意を表する次第である。
桐原 健、島田哲男、直井雅尚、樋口昇一、平林 彰、山田真一、山下泰永

第1章 調 査

1. 塩田若宮遺跡について

塩田若宮遺跡は潮沢の深い谷を形成して東から西へ流れ下る潮沢川が犀川と合流する合流点の南東方向に存在する犀川が形成した河岸段丘上に広がっている遺跡で、同じ段丘上には古代から近世にかけての遺跡が濃密度で分布している為、それらも含めて大きく潮遺跡群としてとらえられている。

この塩田若宮遺跡の推定範囲内には明科町立明北小学校があり、過去において昭和25年に校庭拡張工事・昭和44年に隣接する給食センター建設工事・昭和46年に校舎移転改築工事が行われた際に縄文土器や須恵器・土師器破片が出土したものの本格的調査は行われなまま現在に至っている。

2. 調査理由

前述のように本格的調査が実施される機会のなかった本遺跡も小学校体育館の老朽化にともない平成8年度に体育館建て替え工事を実施することが決定されたことから、明科町教育委員会では工事前に新体育館建設予定地の埋蔵文化財発掘調査を行い記録保存することが必要として調査団を編成し平成8年6月17日から同7月5日までの期間で発掘調査を実施した。

3. 調査方法

調査にあたって新平面座標系Ⅷによる測量座標を利用して座標値を基準に5×5mのグリットを調査区全域に設定し、調査期間中の記録・測量はすべてこのグリットを基本として実施している。

重機により表土除去を行ったのち遺構検出精査作業を引き続き行うこととした。

調査時に出土した遺物や調査記録等は明科町教育委員会にて現在一括保管している。

4. 調査結果

雨による土質の悪化や過去の工事による破壊かく乱等の悪条件により遺構検出作業は困難を極めたが、最終的に竪穴住居と推定される住居址5軒・敷石住居と推定される住居址1軒・掘立建物と推定される建物址3棟・土壇2ヶ所・水田の畦区画を想定させるような溝状遺構1ヶ所を検出することが出来た。これらの遺構それぞれに関しては後述の章で概略を記したいが、全体に遺構の年代確定できうる遺物の出土がほとんど無かった為、かろうじて6号住居址のみ出土土器片から縄文時代後期前葉期の住居と推定できただけであった。他の遺構については総合的に判断しある程度の年代を想定している。

破壊が広範囲に及んでいる為当時の遺構の分布状態は不明であるが、概して住居址は調査区南側に集中するように見て取れる配置であることから、あるいは集落の中心部分はまだ南の現在小学校校庭になっているあたりである可能性が高いものと思われる。

第2章 遺構・遺物

1号住居址（第3図）

26G・27G・32G・33Gから検出された5.6×5mの規模を持つ隅丸方形の住居址。北壁・西壁・南壁沿いに溝を持ち、この溝は住居南西コーナーから住居の外へ伸びている。東壁中央やや北よりに粘土と焼土の集中部分があり、ここがカマドである可能性が高い。溝の中からは縄文時代の土器破片や石器が出土している。遺物の出土は無いものの住居の形態から古墳時代以降の住居址と考えたい。

1号建物址（第3図）

32G・33Gで検出された掘立建物址。1号住居址を切って造られている。周囲の土質状態不良の為1間×2間の規模のみ確認できたものでさらに周囲に広がる可能性も残している。遺物は無い。

2号住居址（第4図）

46Gで検出された。3号住居址上に貼り床して構築される。東壁と東北コーナーのみ確認されているため規模は不明。床面上には集石があり平らな石の状態から敷石住居であった可能性も大きい。推定南壁際には粘土で周囲を囲った石遺構があり、周辺には焼土やNa69石棒が出土している。

3号住居址（第5図）

40G・41G・46G・47Gで検出された。2号住居址に貼り床されている。北壁と東壁がかろうじて確認される状態で規模は不明。床面上には集石や焼土が見られる。遺物は無い。

2号建物址（第7図）

15G・16Gで検出された。工事破壊によるカク乱により検出作業は困難であった。すべての柱穴の確認ができていないわけではないがピットの並び具合から推定2間×4間の建物址と考えられる。周辺から縄文時代の石器が出土しているけれどもこの建物址との関連性はうすいと考えられる。

4号住居址（第6図）

6G・12Gで検出された。壁が検出出来なかった為、規模は不明である。石の状態から本来は敷石住居だったものと思われる。住居の北側半分はカク乱により破壊されている。集石内には幅約1mの石組み炉があり、炉址の南東角には一見蛇の頭部を思わせる立石が立てられていた。年代を確定出来る遺物は出土しなかったが炉の形態から縄文時代中期頃の住居址と推定された。緑泥片岩の石棒が出土している。

1号土壌（第6図）

12Gで4号住居址と同一面で検出された規模1×0.8m深さ-20cm程度の土壌。縄文土器破片が出土しているが年代推定ができるものではなかった。

2号土壇（第6図）

12Gで4号住居址の石を取り除いた段階で検出された規模0.8×0.4m深さ-50cmの土壇。土壇内には石が詰め込まれていた。遺物は無い。

5号住居址（第6図）

4号住居址の石を取り除くとその直下に縄文時代の石器を出土させるピット群の層があり、その層を掘り下げた下面で検出された。床面上からの遺物の出土は無い。上層から出土した石器がフク土内出土であるかもしれない。壁の一部が残っているのみで規模は不明。この住居も北側半分はカク乱により破壊されている。

6号住居址（第6図）

12Gで検出された。5号住居址を切って構築されている。住居址の一部が残っているだけで他の部分はカク乱により破壊されている。壁近辺に石が散乱しており縄文時代後期の土器片が混入していた。住居廃絶時の投げ込みであろうか。出土土器片から縄文時代後期前葉期の住居址と推定された。

3号建物址（第6図）

6G・12Gの最上層で確認されたピット群。大部分が破壊されていることから全容は不明であるが残存ピットの並びから建物址とした。遺物は無い。検出面あるいはフク土から古代から近世にかけての遺構と考えられる。

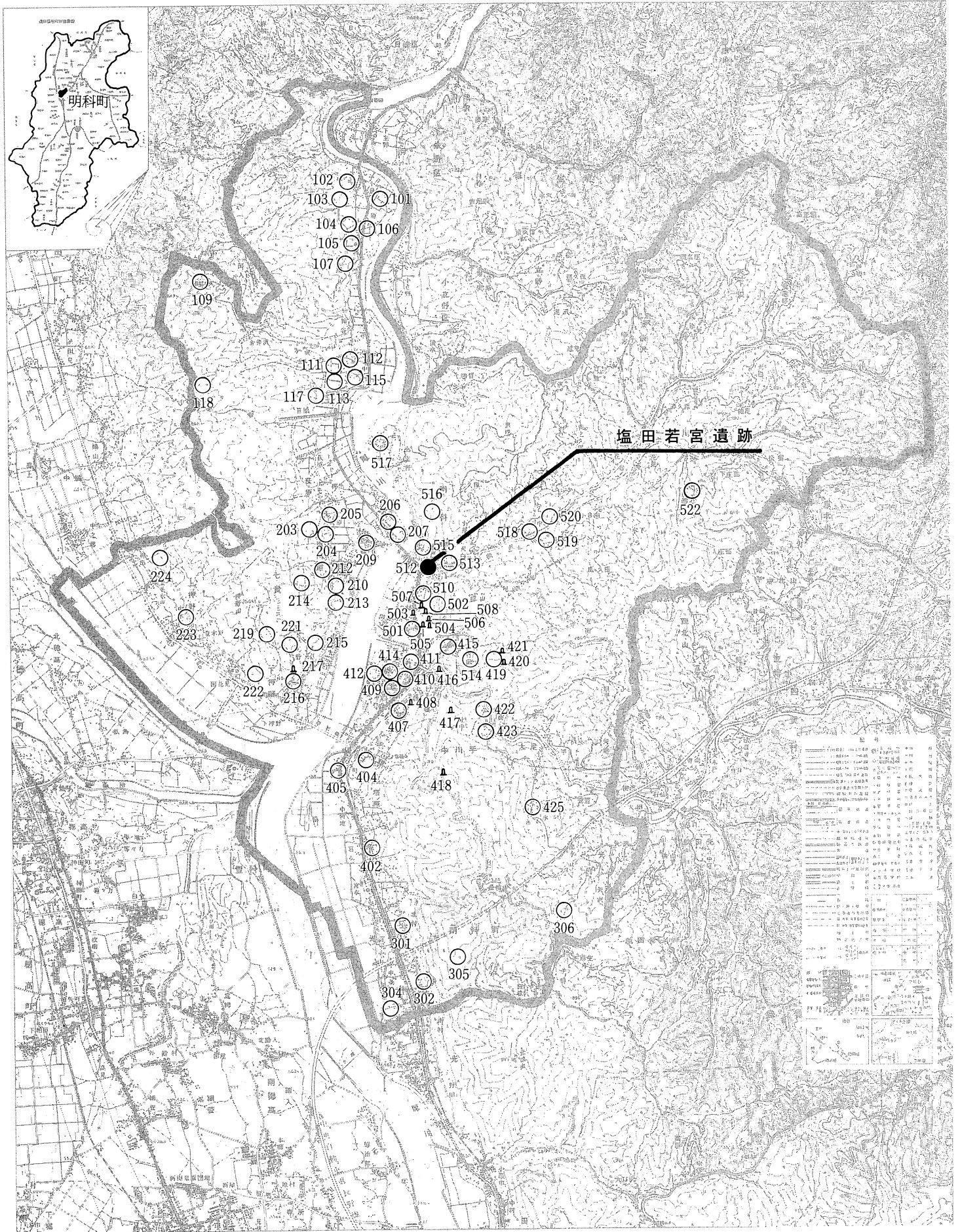
溝状遺構と周辺ピット群（第8図）

調査区の北部側8G・13G・14G・19G・20G・25G・26Gで検出された遺構。溝の幅は40cmから50cm深さは平均して-10cmで水田の畦区画を想像させるように方形に区画を形成している。南側と西側の続きは破壊により消滅している。フク土の土からこの溝状遺構とその周辺にあるピット群は古代から近世にかけての遺構であると推定された。

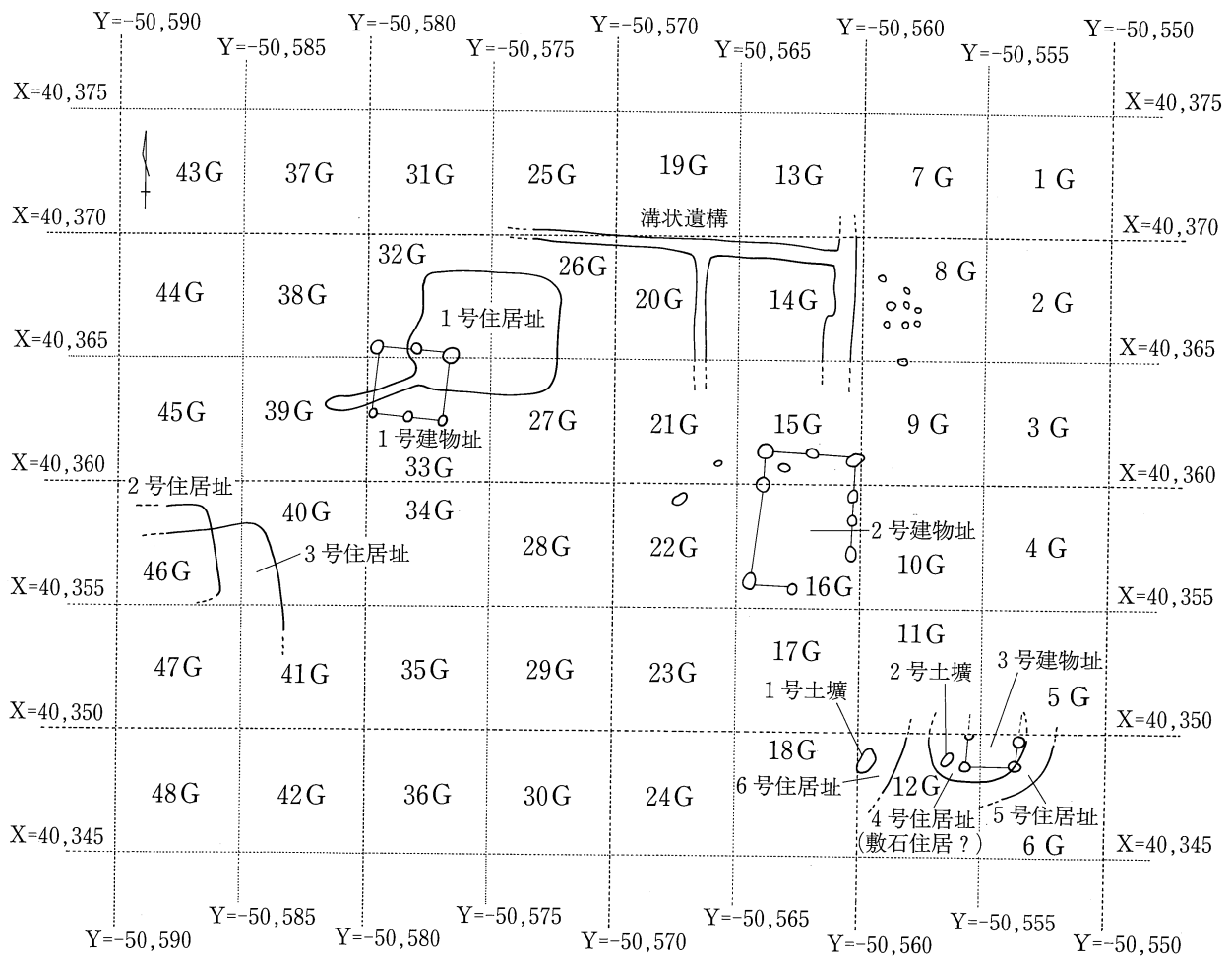
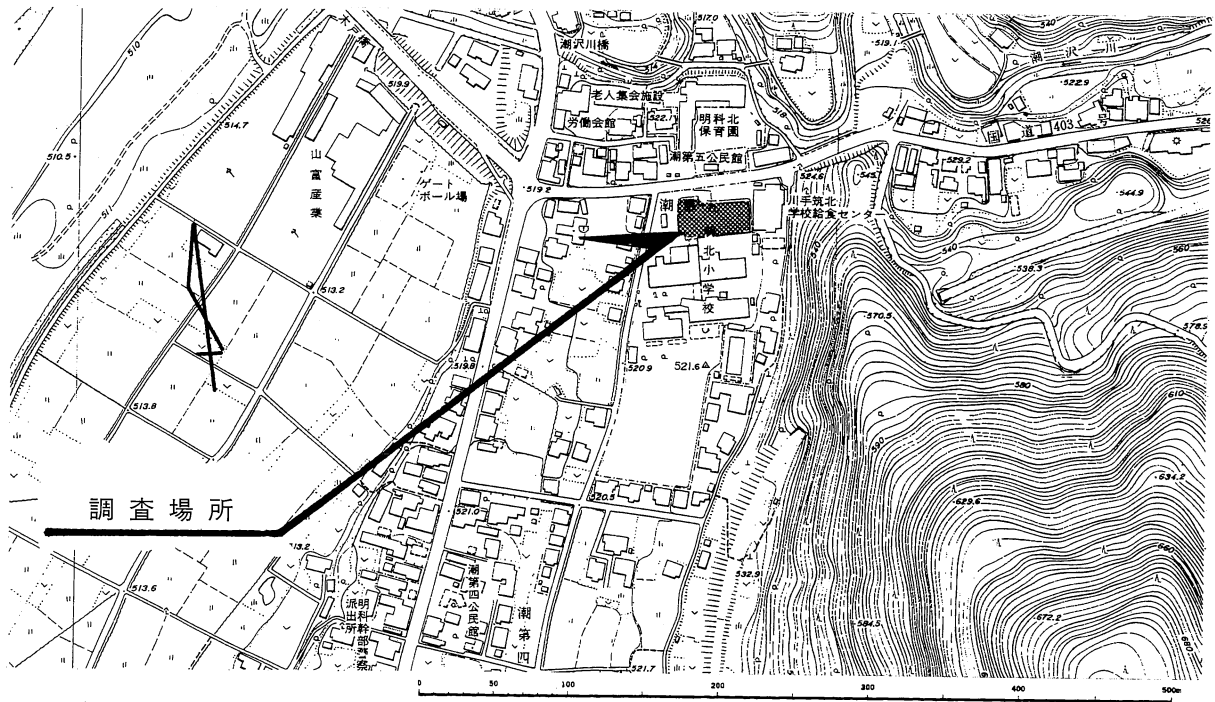
遺物

出土土器片はすべて破片であり復元可能の個体はないため、出土土器片のなかから拓本と図上復元が可能なものを選びだし図示した。そのため図版に図示した土器片で出土土器片全点ではない。出土石器については出土数が少ないため全点を掲載した。各出土遺物については後掲の観察表を作成した。

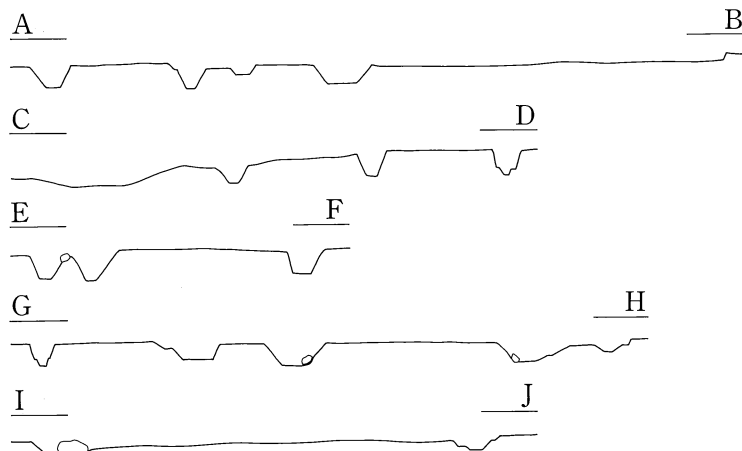
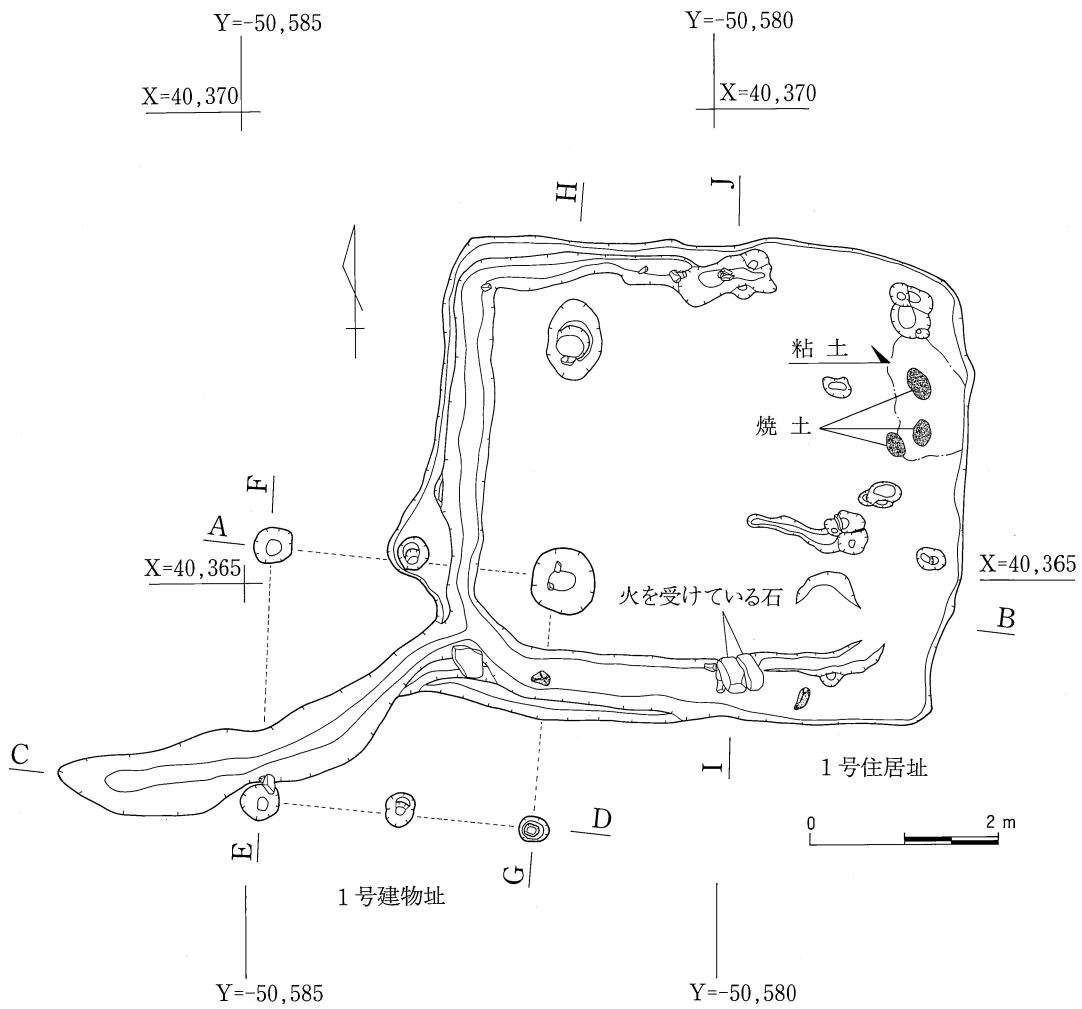
遺跡番号	遺跡名	所在地	立地	旧石器	縄文					弥生	古奈良	墳平	中近世	古墳(期)	遺跡番号	遺跡名	所在地	立地	旧石器	縄文					弥生	古奈良	墳平	中近世	古墳(期)
					草	早	前	中	後											晩	中	後	土	須					
101	ほうろく屋敷	南陸郷小泉	犀川段丘		○	○	○	○		○	○	○	○		404	上手屋敷	中川手町耕地	犀川段丘		○	○	○			○	○	○		
102	高松寺跡	〃	犀川段丘										○		405	町屋敷	〃	犀川段丘									○		
103	萬平	〃	犀川段丘		打製石斧									407	明科遺跡群 上郷	〃 上手上郷	犀川段丘					○							
104	竹原	〃	犀川段丘		打製石斧、磨製石斧						○	○			408	上郷古墳	〃	山麓									○		
105	上ノ段	〃	犀川段丘								○				409	明科院寺	〃 県町	犀川段丘							○	○	○		
106	北原	〃	犀川段丘		打製石斧、石匙						○	○			410	〃	〃	犀川段丘								○	○	○	
107	棚平	〃	犀川段丘								○				411	柴町	〃 柴町	犀川段丘							○	○	○		
109	泉福寺	〃 金井沢	山腹										○		412	龍門淵	〃 本町	犀川段丘							○	○	○		
111	専光寺跡	〃 中村	犀川段丘										○		414	〃	〃	犀川段丘							○	○	○	○	
112	寺裏	〃	犀川段丘		打製石斧									415	こや城	〃 東柴町	会田川 河岸段丘		○		○	○		○	○	○			
113	石原	〃	犀川段丘				○				○				416	能念寺 1号墳	〃	山腹										○	
115	中村経塚	〃	犀川段丘				○								417	〃 2号墳	〃	山頂										○	
117	源藤平	〃	犀川段丘		縄文土器									418	〃 3号墳	〃 町耕地	山腹の 平坦地										○		
118	塚田山	〃	山頂		打製石斧									419	武士平	〃 大足	会田川 河岸段丘								○	○	○	○	
203	宮原	七貴 荻原	山腹				○	○			○	○			420	武士平 1号古墳	〃	会田川 河岸段丘										○	
204	宮原古窯跡	〃	山腹								○				421	〃 2号古墳	〃	会田川 河岸段丘										○	
205	宮ノ前	〃	犀川段丘				○	○			○	○			422	吐中	〃 大足吐中	山麓	?	○		○							
206	荒井	〃	犀川段丘						○						432	城下	〃	山麓				○							
207	伊勢宮	〃	犀川段丘				○	○							425	光久寺	〃 清水	山麓										○	
209	みどりヶ丘	〃 原	犀川段丘		○	○	○	○	○	○	○	○			501	潮遺跡群 橋ノ爪	東川手潮	犀川段丘								○	○	○	
210	塩川原	〃 塩川原	犀川段丘		○	○	○	○	○	○	○	○			502	新屋	〃	犀川段丘								○	○	○	
212	桜坂古窯跡	〃	山腹								○	○			503	釜山塚古墳 1号墳	〃	犀川段丘										○	
213	孫五郎屋敷	〃	犀川段丘				○	○							504	〃 2号墳	〃	犀川段丘										○	
215	上野	〃 下押野	犀川段丘				○				○	○			505	〃 3号墳	〃	犀川段丘										○	
216	やしき	〃	犀川段丘				○				○	○			506	〃 4号墳	〃	犀川段丘										○	
217	上屋敷古墳	〃	犀川段丘										○		507	〃 5号墳	〃	犀川段丘										○	
219	押野山遺跡群 押野山	〃	山頂				○						○		508	お経塚古墳	〃	犀川段丘										○	
221	城ヶ平	〃	山頂				○						○		510	浦田	〃	犀川段丘								○	○	○	○
222	押野八幡宮	〃	高瀬川 河岸段丘								○		○		512	塩田若宮	〃	犀川段丘			○	○	○			○	○	○	
223	中木戸	〃 上押野	山麓										○		513	三五山	〃	高瀬川 河岸段丘				○	○						
224	天王原	〃	高瀬川 河岸段丘										○		514	茶白山	〃	山頂				○						○	
301	光遺跡群 北村	光 北村	犀川段丘				○	○		○	○	○			515	木戸橋ノ爪	〃 木戸	犀川 自然堤防									○	○	
302	中条	〃 中条	犀川段丘										○		516	大久保	〃 大久保	山腹									○		
304	古宮	〃	犀川段丘										○		517	上生野	〃 上生野	犀川段丘				○			○	○	○	○	
305	しょうぶ平	〃	山腹の 平坦地										○		519	山中中屋敷	〃 山中	谷合の 平地				○							
306	天平	〃 矢ノ沢	山腹の 平坦地		石鏃、スクレイパー						○	○			520	土橋	〃 山中	山麓									○		
402	犀宮社	中川手宮本	犀川段丘										○		522	庄部沢	〃 庄部	山腹		打製石斧									



第1図 明科町遺跡分布図



第2図 調査区全体図及びグリッド設定図



第3図 1号住居址・1号建物址



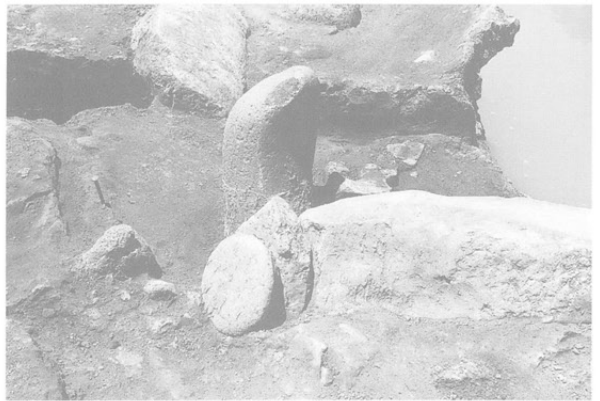
溝状遺構 (南から)



1号住居址 (北から)



4号住居址 (南から)



4号住居址 炉南東角立石 (東から)



5号住居址 (北から)



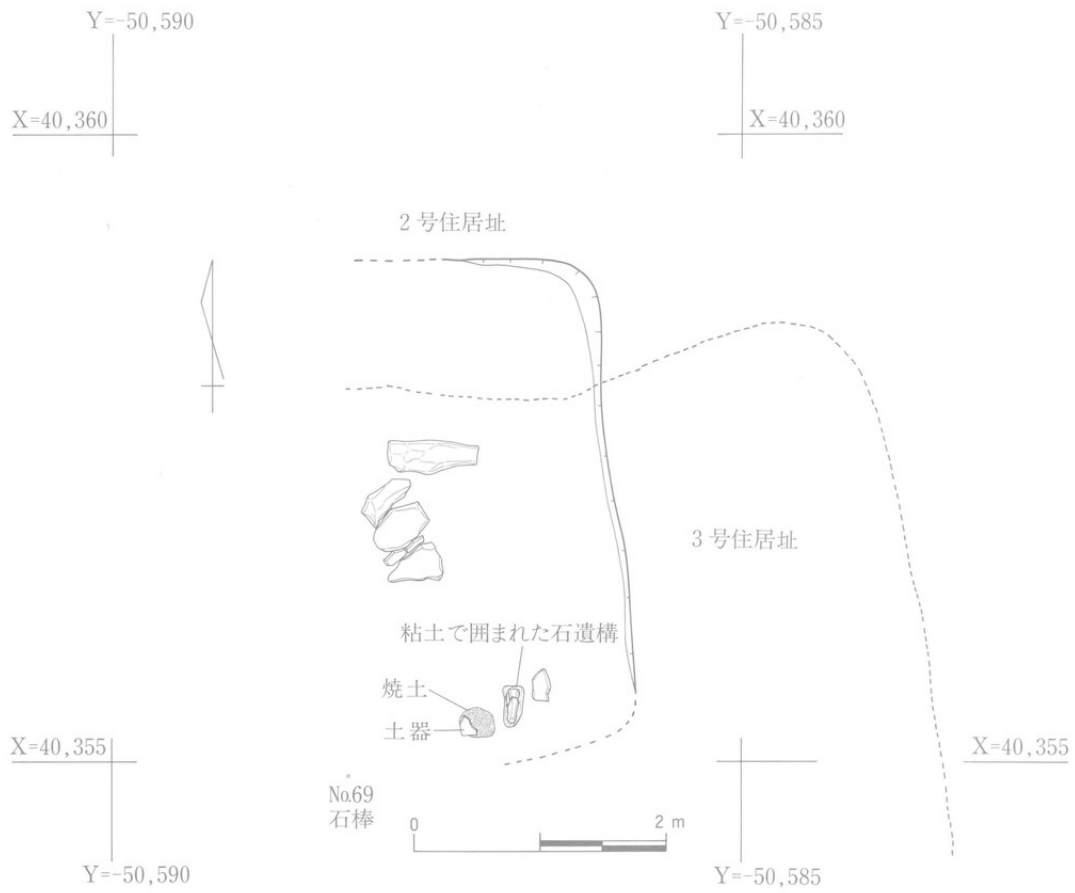
6号住居址 (北から)



1号土壙 (東から)



2号土壙 (東から)



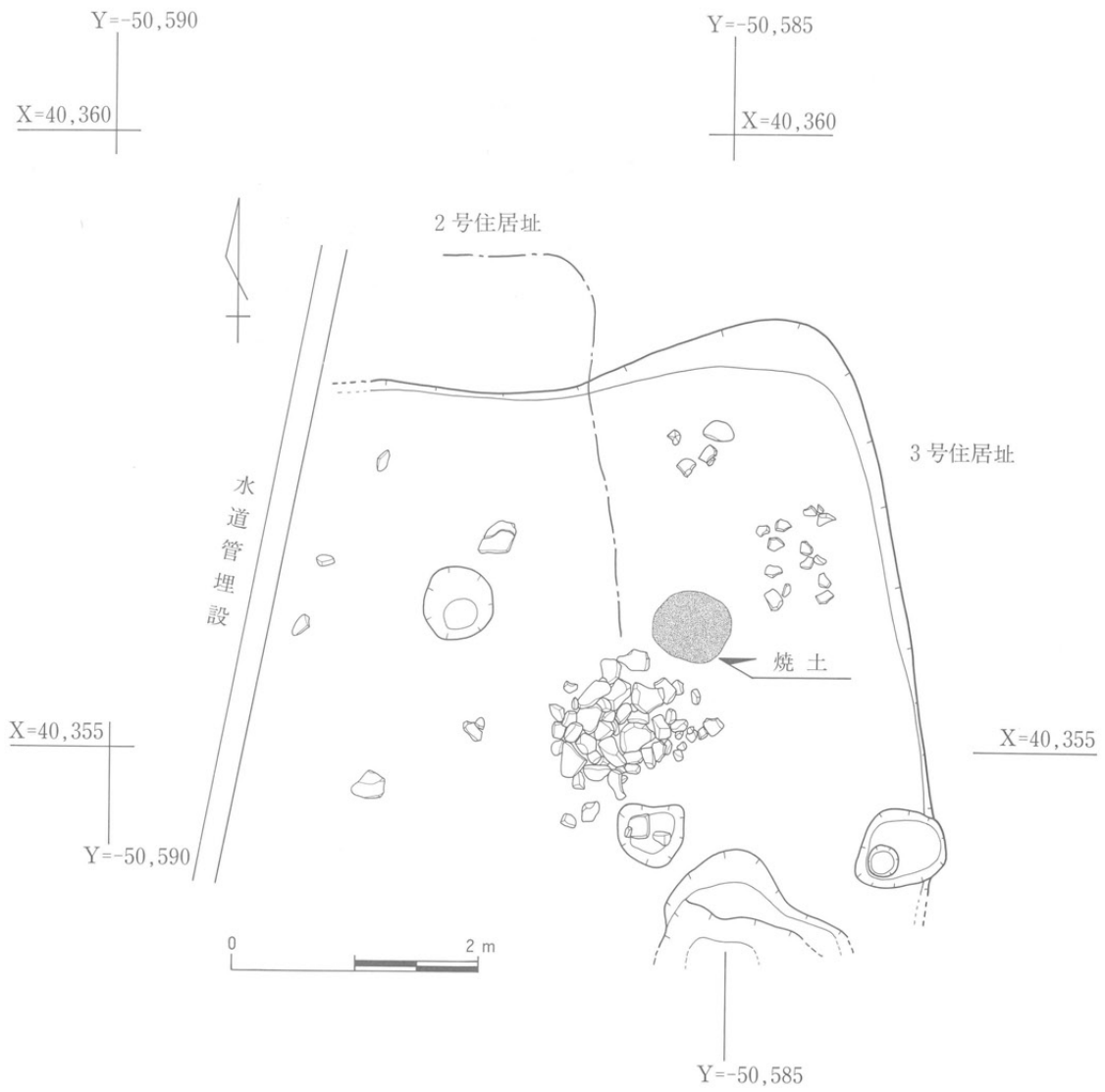
第4図 2号住居址



2号住居址 (北から)



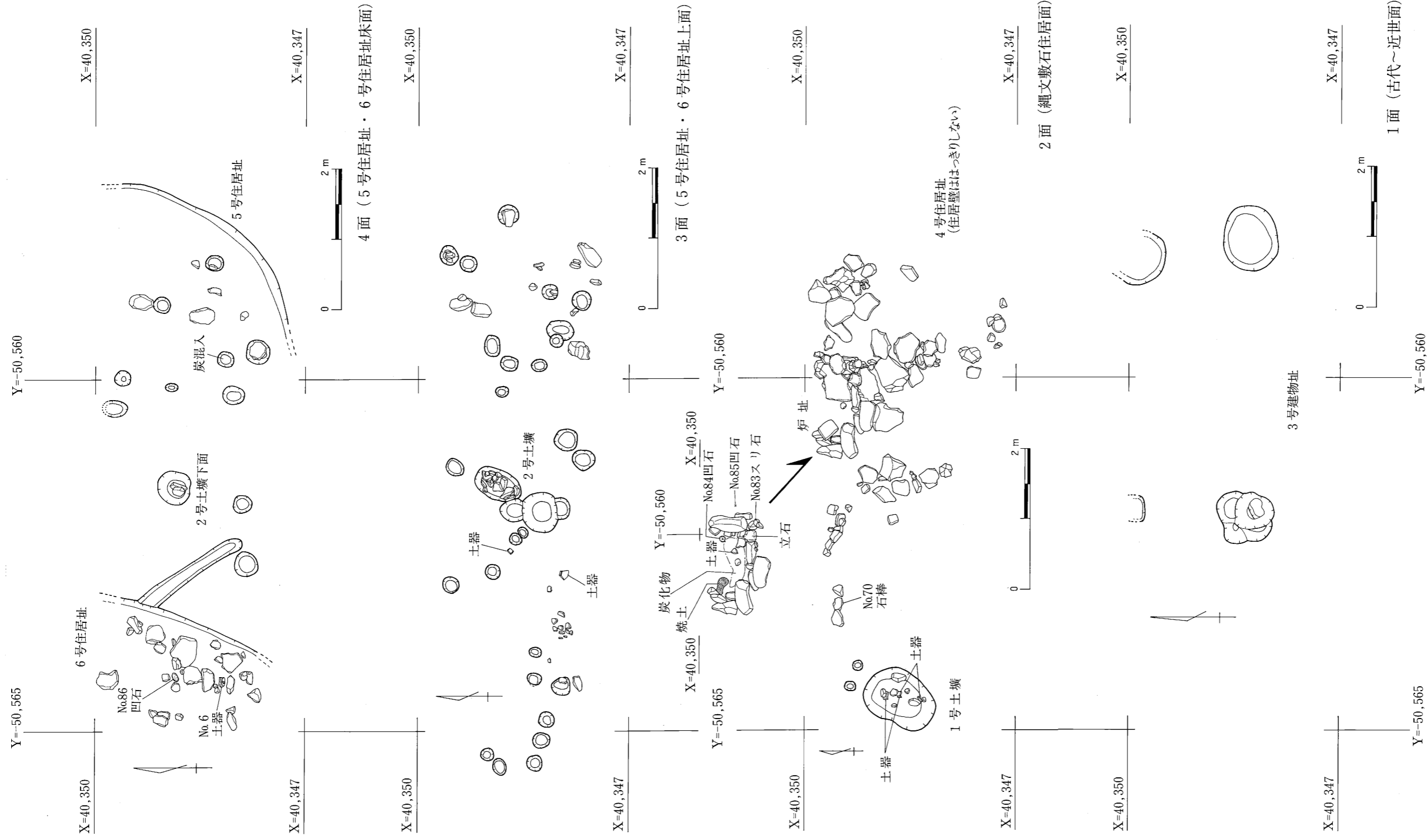
2号住居址 粘土で囲った石遺構 (北から)



第5図 3号住居址

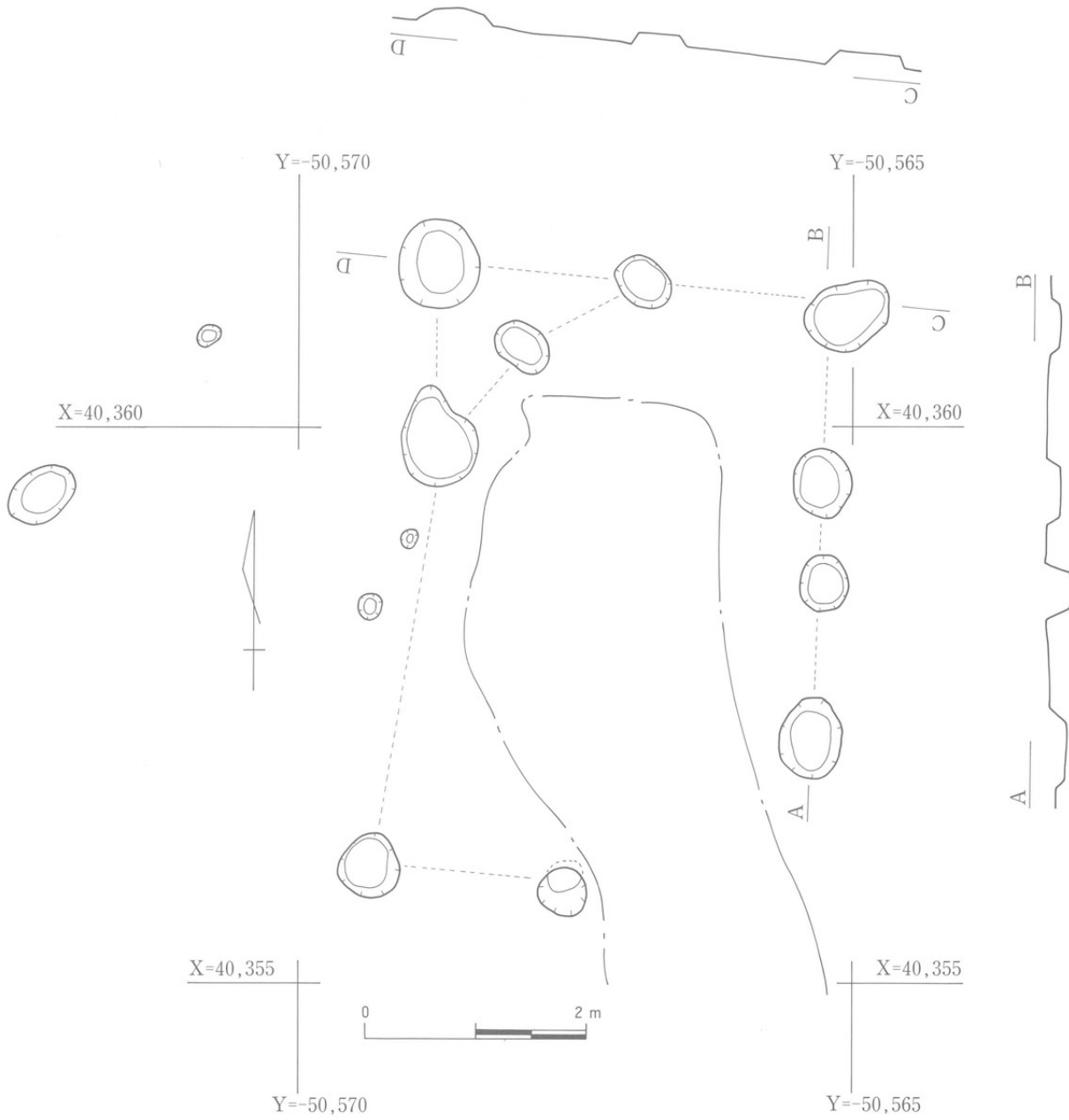


3号住居址 (南から)



第6図 6G・12Gに存在する遺構

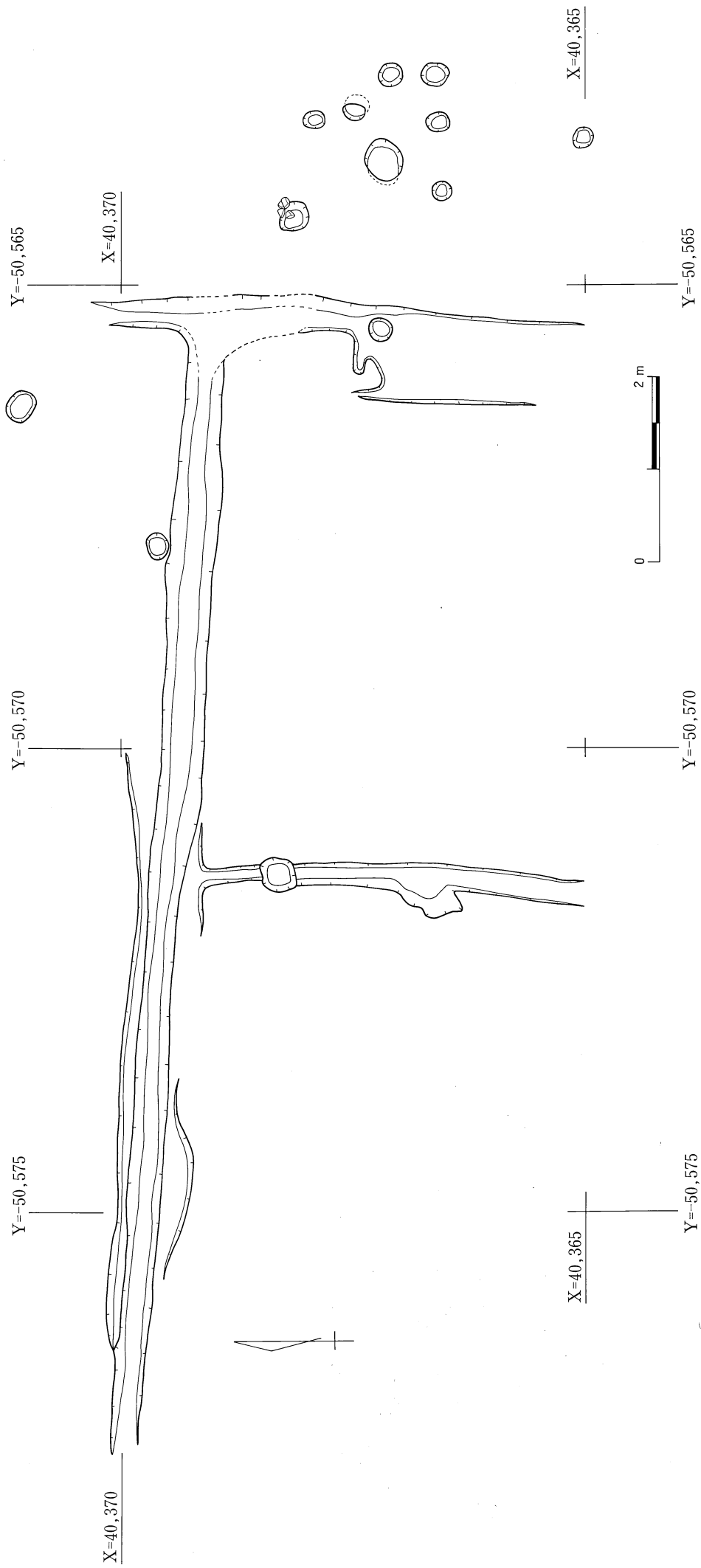




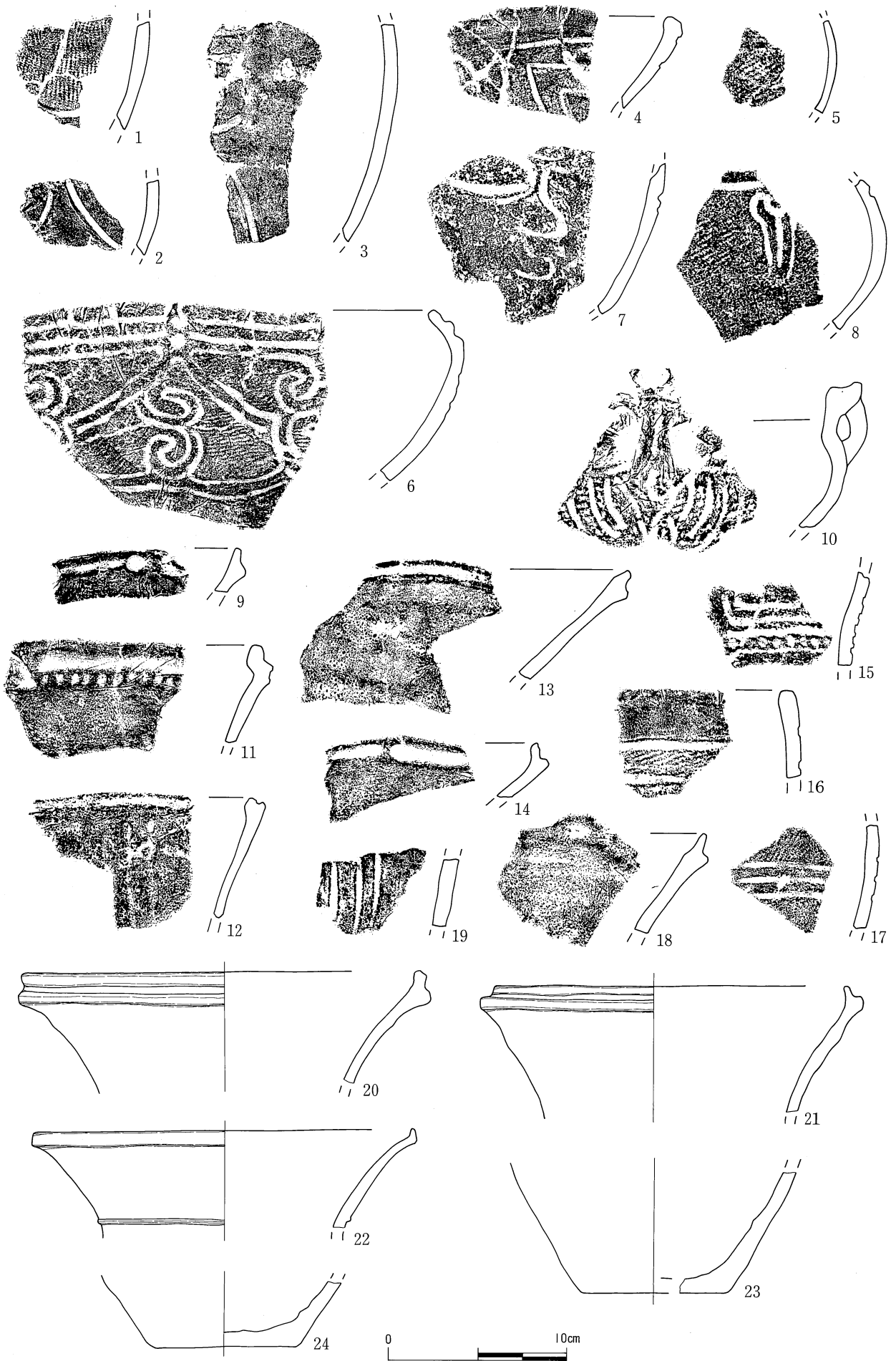
第7図 2号建物址



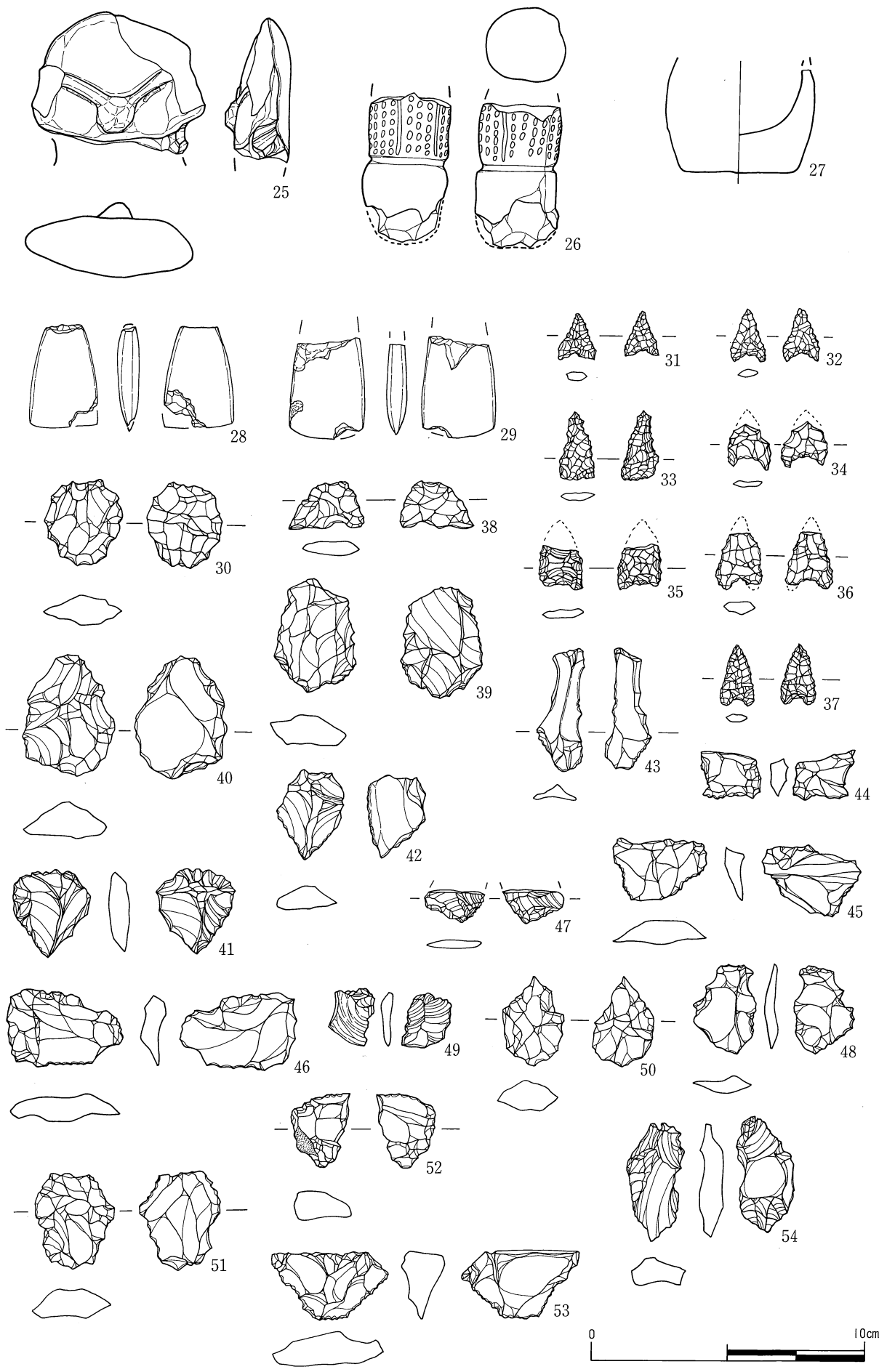
2号建物址 (北から)



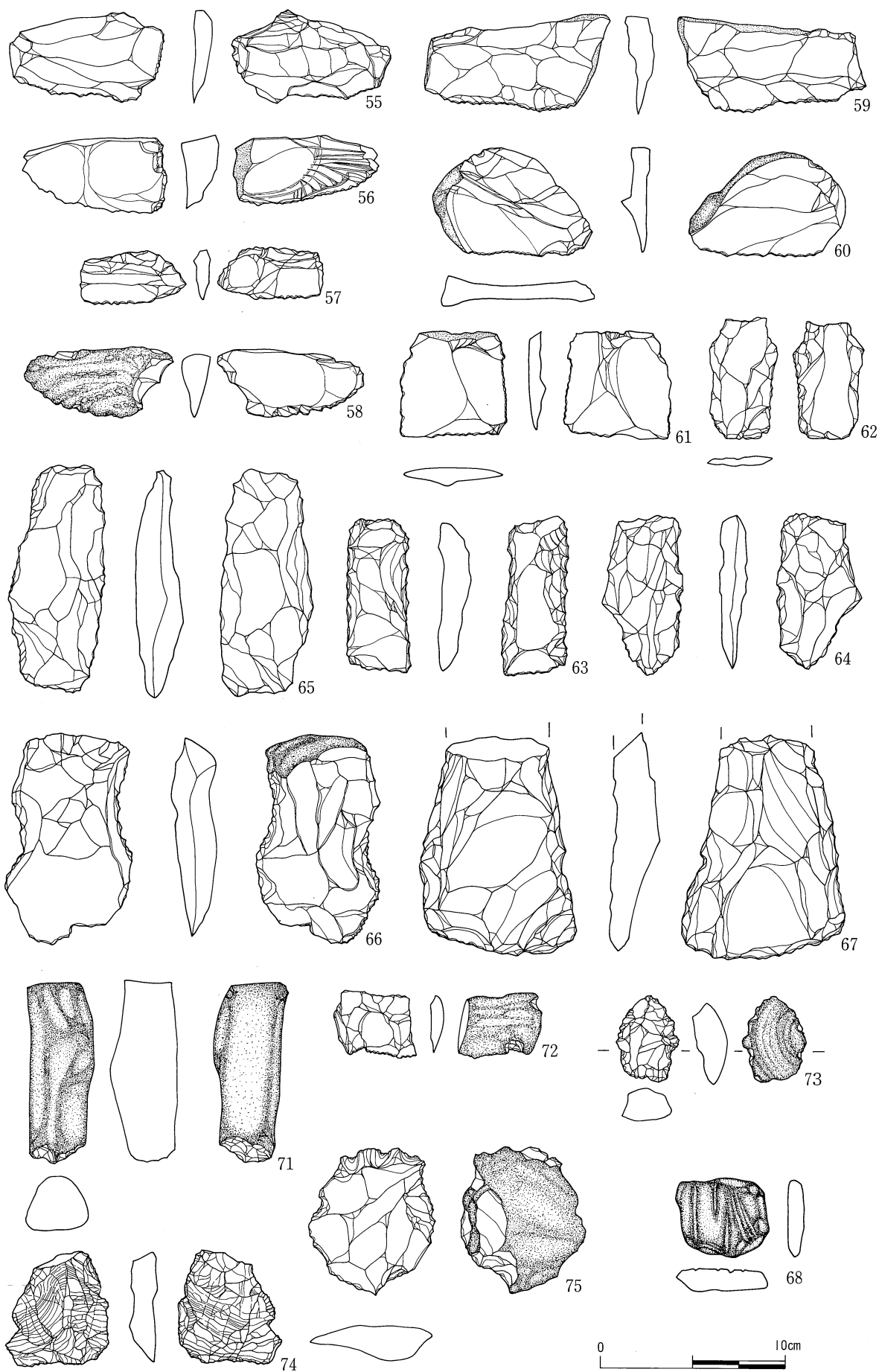
第8図 溝状遺構



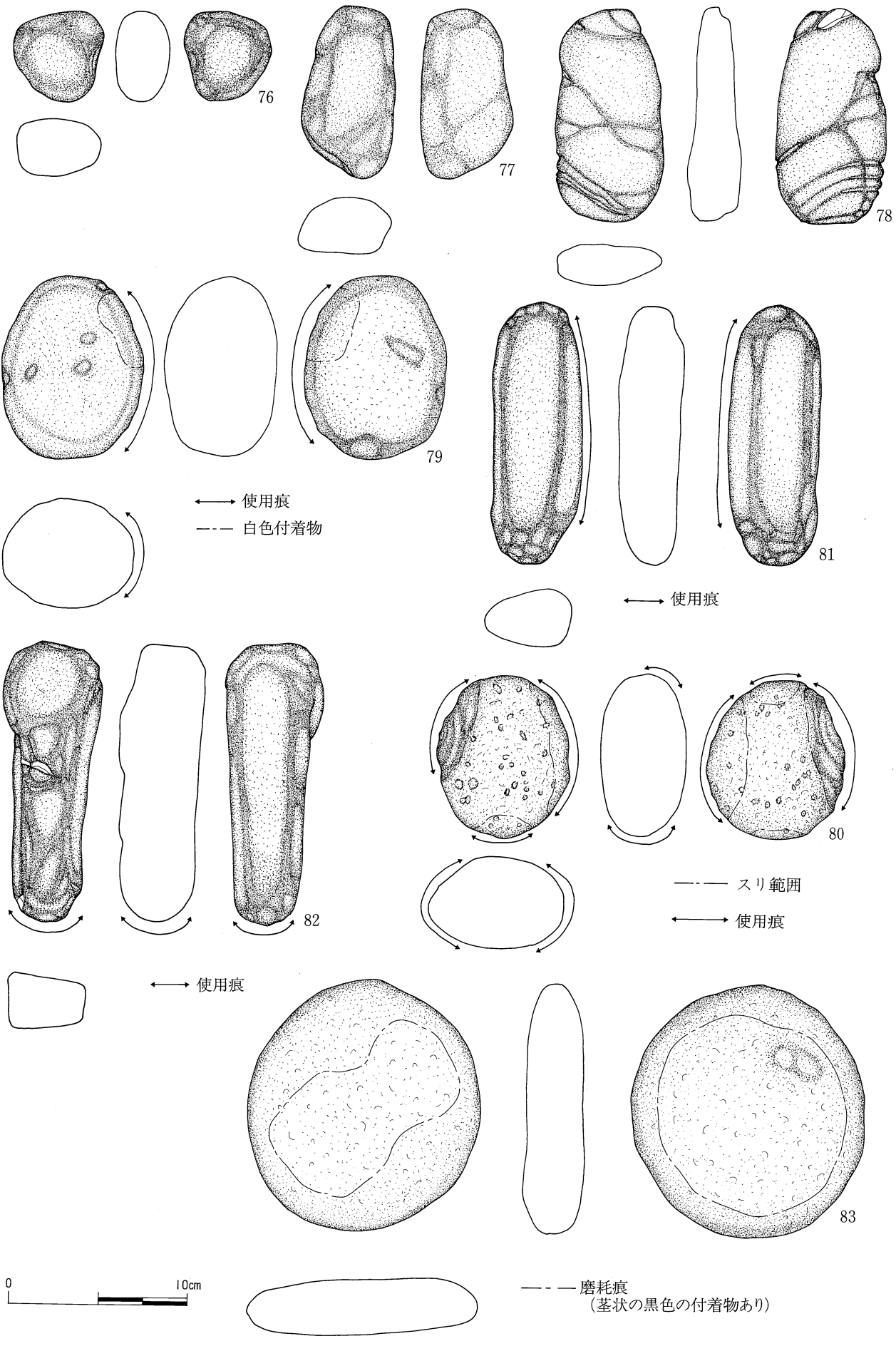
第9图 出土土器



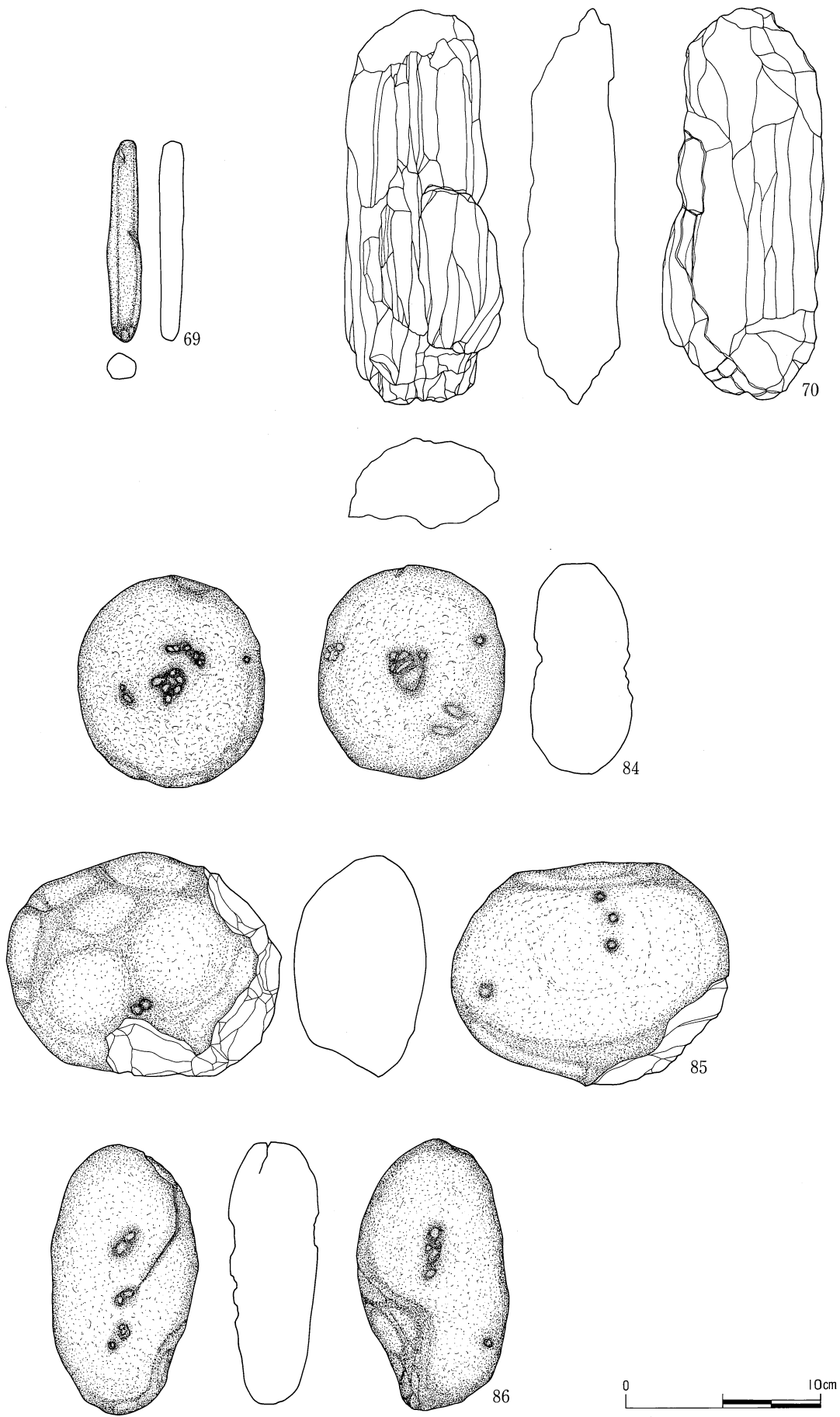
第10図 出土土製品・出土石器



第11图 出土石器



第12図 出土石器



第13图 出土石器

表2 出土土器

No	遺構	器形	色		焼成	胎土	注記	破片部位	備考
			外	内					
1	1号住	深鉢	褐色	黄褐色	良	直径0.5~1mm程度の石英粒を多量に含む	SB101 32G 胴部		
2	1号住	深鉢	褐色	褐色	良好	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	SB101溝32G 胴部	No.3と同一個体	
3	1号住	深鉢	褐色	褐色	良好	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	SB101溝32G 胴部	No.2と同一個体	
4	5号住	深鉢	褐色	黒褐色	良好	直径0.5mm程度以下の白色粒を多量に含む	SB104 6G 口唇~口辺		
5	5号住	深鉢	赤褐色	赤褐色	良好	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	SB104 6G4面 胴部		
6	6号住	鉢	黒褐色	茶褐色	不良	直径1~3mm程度の小石を多量に含む	SB108No52 12G4面 口唇~胴部1/4	後期土器、胴部で膨らみ口辺部で強く内湾する	
7	6号住	鉢	赤褐色	黒褐色	不良	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	12G3面床 胴下部		
8	6号住	鉢	黒褐色	黒色	良	微細な石英粒を多く含む	12G3面床 口辺~胴部	内面炭化物が全面に付着 地紋は縄文	
9	6号住	鉢	赤茶褐色	赤茶褐色	良	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	12G 口唇	浅鉢か?	
10	6号住	深鉢	黒褐色	黒褐色	良	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	12G3面床 口唇~胴部	把手付キャリパー型	
11	6号住	深鉢	褐色	黄褐色	良好	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	12G3面 口唇~口辺		
12	6号住	深鉢	橙褐色	橙褐色	良	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	12G3面 口唇~口辺		
13	6号住	鉢	茶褐色	茶褐色	良	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	12G 口唇~胴部	浅鉢か?	
14	6号住	浅鉢	茶褐色	茶褐色	良好	微細な砂粒を多く含む	12G3面 口唇~口辺		
15	6号住	深鉢	橙褐色	橙褐色	良好	直径0.5~2mm程度の小石を多量に含む	12G 胴部		
16	6号住	深鉢	黒褐色	橙褐色	良好	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	12G3面床 口唇~口辺		
17	6号住	深鉢	褐色	褐色	良好	直径0.5程度の砂粒を多量に含む	12G3面 胴部	内面ハケ状工具による整形痕あり	
18	6号住	鉢	白褐色	白褐色	良	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	SB105G12 口唇~口辺	浅鉢か?	
19	6号住	深鉢	褐色	褐色	良好	直径0.5程度の砂粒を多量に含む	SB105G12 胴部		
20	6号住	鉢	赤褐色	赤褐色	良好	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	12G3面 口唇~口辺1/4	内外面に黒色炭化物付着 推定口径23cm	
21	6号住	鉢	暗褐色	灰褐色	良	直径0.5mm以下の石英粒を多量に含む	SB105G12 3面 口唇~口辺1/5	推定口径21.5cm	
22	6号住	鉢	暗褐色	暗褐色	良	直径0.5~2mm程度の砂粒を多量に含む	SB105G12 口唇~口辺1/8	内外面に黒色炭化物付着 推定口径21.5cm	
23	6号住	鉢底部					12G3面床		
24	6号住	鉢底部					No37 18G		
25	6号住	土偶頭部	橙褐色		良好	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	12G		
26	4号住	土偶脚	黒褐色		良好	直径0.5~1mm程度の砂粒を多量に含む	No21		
27	1号住	小型土器					SB101北焼土		

表3 出土石器 長さ・幅は最長値、厚さは最厚値を表し、() は欠損がある場合の現存値を表す。

No	形態	遺構	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	材質	色調	注記	備考
28	磨製石斧	12G	37	25	8	13.0	頁岩	黒赤色	G12No38	4号住のものか?
29	磨製石斧	1号住	(34)	27	7	13.0	頁岩	明橙色	No 2	1号住溝内出土
30	ピエス	6 G	30	27	11	8.0	チャート	黒色	No27	5号住上面
31	石鏃	1号住	16	13	3	0.3	チャート	黒灰色	No 1	1号住溝内出土
32	石鏃	9 G	20	13	3	0.5	チャート	黒灰色	No13	
33	石鏃	15G	26	12	3	0.5	チャート	灰色	No19	
34	石鏃	6 G	16	15	2	0.1	チャート	黒灰色	No25	5号住上面
35	石鏃	12G	(14)	15	3	0.8	黒曜石		No46	
36	石鏃	6 G	(20)	18	5	1.0	チャート	灰色	No42	5号住上面
37	石鏃	6 G	23	13	3	0.2	チャート	赤	No50	5号住上面
38	石鏃未製	12G	17	28	5	2.0	チャート	赤	12G 3 面床	5号住上面
39	石鏃未製	4号住	42	30	11	13.2	チャート	黒色	No16	
40	石鏃未製	4号住	45	33	13	14.0	チャート	黒色	No17	
41	石鏃未製	6 G	30	28	7	4.5	チャート	黒灰色	No32	5号住上面
42	石鏃未製	33G	32	23	8	6.0	チャート	黒灰色	No 7	
43	スクレイパー	1号土壙	45	17	5	2.0	チャート	灰色	No22	タテ型
44	スクレイパー	9 G	17	25	6	1.5	チャート	灰色	No14	未製
45	スクレイパー	1号土壙	22	33	9	5.2	チャート	灰色	SK-1 G12	
46	スクレイパー	12G	27	42	9	8.0	チャート	灰色	No23	
47	剥片	6 G	11	22	3	0.1	黒曜石		No26	5号住上面
48	剥片	1号住	32	23	6	2.2	チャート	灰色	No 5	
49	剥片	12G	22	14	4	1.0	黒曜石		SB106床面	5号住上面
50	石器未製	12G	32	23	11	7.0	チャート	灰色	P63	4号住下層ピット内
51	石器未製	6 G	36	29	10	10.0	チャート	灰色	No51	5号住
52	石器未製	4号住	26	22	10	6.0	黒曜石		G12敷石面	
53	石器未製	4号住	43	25	15	11.5	黒曜石		No18	
54	石器未製	4号住	42	22	8	7.0	黒曜石		No18	
55	横刃	12G	85	45	10	45.0	頁岩	赤褐色	12G	5号住上面
56	横刃	12G	75	30	20	62.0	硬質砂岩	白色	12G	5号住上面 右利き用に加工
57	横刃	6 G	57	27	8	10.5	頁岩	白青色	No29	5号住上面
58	横刃	4号住	80	37	14	43.0	硬質砂岩	白色	SB102	
59	横刃	6 G	102	48	12	100.0	チャート	黒灰色	No34SB104	5号住上面
60	横刃	6号住	84	56	10	80.0	頁岩	灰白色	No55SB108	
61	横刃	12G	55	56	9	40.0	頁岩	白灰色	No47	6号住上面
62	打製石斧	6 G	64	38	4	19.0	頁岩	青灰色	No30	5号住上面
63	打製石斧	12G	80	34	15	50.0	硬質砂岩	白灰色	No40	6号住上面
64	打製石斧	18G	83	45	15	50.0	頁岩	黒青色	No41	6号住上面
65	打製石斧	6 G	120	50	25	130.0	硬質砂岩	白灰色	No43	5号住上面
66	打製石斧	4号住	112	66	22	182.0	硬質砂岩	白灰色	No15	
67	打製石斧	5号住	(115)	88	25	318.0	硬質砂岩	白灰色	SB104	
68	砥石	12G	41	52	11	37.0	砂岩	淡橙色	G12	
69	石棒	2号住	104	18	11	40.0	硬質砂岩	赤茶色	SB107	
70	石棒	4号住	202	80	50	970.0	緑泥片岩	暗緑色	No43G12	
71	石器未製	6号住	95	35	36	195.0	硬質砂岩	青褐色	No53SB108	
72	剥片	6 G	44	34	7	16.0	頁岩	暗青色	No31	5号住上面
73	石器未製	1号住	46	35	16	26.0	チャート	黒灰色	SB101	
74	石器	5号住	60	56	14	46.0	チャート	黒色	No28SB104	
75	石器	15G	78	70	20	89.0	チャート	黒色	No20	
76	みがき石	6 G	50	50	31	115.0	安山岩	黒色	No11	
77	たたき石	18G	95	52	30	220.0	硬質砂岩	白灰色	No44	6号住上面
78	たたき石	1号住	118	60	30	265.0	頁岩	明灰色	No45SB101	
79	たたき石	12G	102	80	63	570.0	安山岩	淡紫色	No 6	白色付着物あり
80	スリ石	12G	88	77	48	385.0	安山岩	淡紫色	No 9	
81	スリ石	12G	145	48	34	380.0	安山岩	灰色	No 8	
82	スリ石	18G	156	53	42	500.0	砂岩	白灰色	G18	
83	スリ石	4号住	130	140	32	835.0	安山岩	白灰色	No39	黒色付着物あり 炉付近
84	凹石	4号住	108	95	48	700.0	安山岩	青紫色	No24	
85	凹石	4号住	142	110	68	1260.0	硬質砂岩	白色	No48	
86	凹石	6号住	138	75	45	540.0	安山岩	白色	No54	

報告書抄録

ふりがな	しおだわかみやいせき							
書名	塩田若宮遺跡							
副書名	明科町立明北小学校体育館建て替え工事に伴う緊急発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	明科町の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第10集							
著者名	大澤 哲 山本紀之							
編集機関	明科町教育委員会							
所在地	〒399-7102 長野県東筑摩郡明科町大字中川手6824-1 ☎ (0263) 62-3001							
発行年月日	1997年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しおだわかみや 塩田若宮	ながのけんひがしちくまぐん 長野県東筑摩郡 あかしなまちおおあざ 明科町大字 ひがしがわて 東川手823	20241	512	36°	137°	1996.06.17	1,200m ²	小学校体育館 建て替え工事
				21′	56′	1996.07.05		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
塩田若宮	集落址	縄文時代 古墳時代	敷石住居1軒 竪穴住居5軒他	縄文土器片 石器他 土師器				

明科町の埋蔵文化財 第10集

塩田若宮遺跡

—明科町立明北小学校体育館建て替え
工事に伴う緊急発掘調査報告—

平成9年3月25日 発行

編集・発行 明科町教育委員会
長野県東筑摩郡明科町
大字中川手6824-1

印刷 ほおずき書籍(株)
長野市柳原2133-5

